

プロジェクト推進型 起業実証支援 2024 年度終了課題 評価結果

※所属機関・役職は研究開発期間終了時のもの

課題名	研究代表者	事業プロモーター	課題概要	総合評価
がん根絶を目指したがん mRNA ワクチンの開発	国立がん研究センター 先端医療開発センター 分野長 中面 哲也	Angel Bridge 株式会社	独自に取得した多数の共通がん抗原を活用したがん mRNA ワクチンを開発する。術後の再発予防を達成し、ワクチンでがんを予防する時代を実現するベンチャー企業の設立を目指す。	事業化を目指した研究開発に進展はあったが、事業開発は必ずしも十分とはいええず、成長するベンチャー設立には至らなかった。
リキッド・バイオプシー生体予測診断サービス“AI ビーフ”の事業化	近畿大学 生物理工学部 教授 松本 和也	インキュベイト ファンド株式 会社	肉牛の血液中たんぱく質情報から成長後の肉質予測サービスを提供するベンチャー企業設立を目指す。さらには、肉牛の生産技術の開発や肉牛の生体を模倣した代替肉開発へサービスを提供することにより、次世代の持続可能な畜産業の実現に寄与する。	事業化のための適切な研究開発および事業プロモーターによる事業化活動の結果、ベンチャーが設立され、次のフェーズに進んでいる。
ソフトウェア品質の論理的説明技術による、自動運転の本格普及の実現	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学 研究系 教授 蓮尾 一郎	インキュベイト ファンド株式 会社	ソフトウェアの品質と安全性を解析・向上させ、顧客および社会に説明を行う ICT サービスを提供するベンチャー企業設立を目指す。特に自動運転に論理的な解析・説明技術を適用し、自動運転の社会受容と本格普及を実現する。	事業化のための適切な研究開発および事業プロモーターによる優れた事業化活動が行われた結果、ベンチャーが設立され、その成長に大きな期待が持てる。
透析患者を自由にするインプラント型人工腎臓の研究開発	慶應義塾大学 理工学部 教授 三木 則尚	サナメディ株式 会社(旧社 名:株式会社 日本医療機 器開発機構)	長期間の血液ろ過機能・抗血栓性を持つインプラント型人工腎臓(i-Azinzo)を実用化する。さらに本人工腎臓により通院透析頻度を低減するハイブリッド腎代替療法開発にも取り組み、透析患者の QALY (質調整生存年)の向上に貢献するベンチャー企業設立を目指す。	事業化を目指した研究開発および事業プロモーターによる支援の結果、成長するベンチャーの設立に向けた進捗があった。
リンパ浮腫トモグラフィック・モニタ(LT モニタ)の実用化開発	千葉大学 大学院工学研究院 教授 武居 昌宏	ティーエス アイ株式 会社	主に婦人科系がんの治療後に発症するリンパ浮腫を早期発見しモニタリングを可能にする、電気インピーダンス・トモグラフィ法を用いた医療機器(LT モニタ)を開発する。非侵襲的で簡易な手法により、医療従事者と患者双方の悩みを解決するベンチャー企業の設立を目指す。	事業化のための適切な研究開発および事業プロモーターによる事業化活動の結果、ベンチャーが設立され、次のフェーズに進んでいる。
高分子吸着材による高濃度 CO2 を含むメタン/CO2 混合ガスからの CO2 回収事業	物質・材料研究機構 機能性材料研究拠点 上席研究員 一ノ瀬 泉	ユニバーサル マテリアルズ インキュー ター株式 会社	圧力変化により大量の CO2 を吸収・放出するエラストマーを利用し、天然ガス開発やバイオガス発電などでの CO2 回収の事業化を行う。大幅な低コスト化を実現し、温室効果ガスの排出削減に貢献するベンチャー企業の設立を目指す。	事業化のための適切な研究開発および事業プロモーターによる事業化活動の結果、ベンチャーが設立され、次のフェーズに進んでいる。

以上